

令和6年度 学校経営計画・学校評価			□4月4日提出		□10月3日提出		☑3月14日提出		学校番号				24		高知国際		高等学校		課程		全	
高知県の教育の基本理念	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人		基本方針	①予測困難な社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進 ②多様な背景・特性・事情等を踏まえた包摂的な教育・支援の推進 ③生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進 ④各種施策を総合的・計画的に推進するために必要な基礎的・基盤的な環境・体制等の整備																		
	【アドミッション・ポリシー】(入学受入れ方針) ○ 将来グローバルな視野をもって活躍したいと考えている生徒 ○ 様々なことに興味や関心を持ち、深く知りたいと思っている生徒 ○ 思いやりをもって行動し、公共につくす気持ちが大切だと考えている生徒 ○ 地域を大切にし、人々の役に立ちたいと考えている生徒			【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) 生徒の希望する多様な進路を実現するため、理系・文系に偏ることなく基礎的な知識・技能を身に付けたうえで、自身の進路希望に応じた科目が選択できるように教育課程を編成する ・データサイエンスの基礎を身に付け、根拠をもとに考察ができるようにする ・総合的な探究の時間を軸にした、学年縦割りゼミの講座設定																		
スクール・ポリシー	【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) グローバル社会で求められる高い志、資質・能力を育む 1 自ら学び、考える力を身に付け、生涯にわたって学び続ける態度を養う。 2 多様な価値観を尊ぶ精神をもち、他者とともに生きる態度を養う。 3 豊かな創造性を持ち、未来を切り開く、自主・自立の精神を養う。																					

学校関係者評価			
【学力の向上】	評価	【 B 】	
全体的に見ると、上昇傾向にあることがはっきりとわかる。挑戦する力も育ってきており、起業する生徒や自身の研究分野で突き抜けた力を持って探究していく生徒がでてきていることは素晴らしい。			
【社会性の育成】	評価	【 B 】	
部活動以外の校外での活動や、SAなど地域社会での活動が多く、社会性ははぐくまれている。キャリアデザイン力、将来の社会を持続可能なものとするための思いも80%を超えている。			
【チーム学校】	評価	【 A 】	
保護者に対してのコミュニケーション方法等について改善の余地がある。保護者と地域の方といった地域社会をうまくまき込み、IB教育の普及を進めていってほしい。			

		育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
重点項目	学力の向上	★確かな学力 ○基礎的・基本的・発展的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力等 ○学びに向かう力、人間性等 ★将来を見通した学び ○将来にわたって学び続ける意欲(学習習慣を含む)	各教科とも積極的に教科会を持ち、授業方法等の検討がなされている。授業でのねらいの提示や振り返りの機会も設定されている。より主体的な学習へと向かわせるために動機づけを工夫する。 ○B層以上の生徒の増加 ・1年:(82.7)%【スタサポ】→(85)%【総合学力テスト】 ・2年:(75.9)%【スタサポ】→(82)%【総合学力テスト】 ○将来のための勉強している生徒の増加 ・1年88.7%、2年91.8%、3年93.8%→1年90%以上 ○授業外学習時間の増加(平均学習時間) ・46分(R5.2回目)→60分 ・平日授業以外学習1時間以上の割合を向上させる。	各教科・学年団で共通理解し、全体で計画的に進める。 ・学期への動機づけを重視した授業展開(特に1年次) ・ICTを有効活用し、授業時間内の思考の時間を多くする ・自らの将来像へとつながるスモールステップの目標設定 ・受けて有意義だと思える補習 ・「学習の方法(ATL)」を用いた自己評価の徹底	B ○B層以上の生徒の増加 ・1年:(82.7)%【スタサポ】→(90.2)%【7月総合学力テスト】 ※C層以上98.1% ・2年:(75.9)%【スタサポ】→(79.1)%【7月総合学力テスト】 ※C層以上96.2% ○将来のための勉強している生徒の増加 ・1年92.4%、2年89.3%、3年91.2%(R6.1回目) ○平日授業以外学習1時間以上(県平均) 1年:37.9%(29.4%)2年:38.5%(26.1%)3年:65.7%(37.6%) ○進路指導研修会(5.29)、高3ベネッセ報告会、新課程入試研修会実施(7.1)河合塾PROG-H(課題発見・解決能力テスト)報告会実施(7.18)	・科学的アプローチを用いて探究できる人材の育成～エビデンスに基づいた解決策を考える～を研究主題とし、授業研究を継続し、授業研究会を実施 ・河合塾PROG-H(課題発見・解決能力テスト)報告会実施 ・模試分析会の分析をもとに検討した教科ごとの具体的対策の実施	B ○B層以上の生徒の増加 【総合学力テスト7月→11月→1月】 ・1年:90.2%→93.4%→92.3% ※C層以上98.1%→98.8%→100% ・2年:79.1%→75.2%→83.6% ※C層以上96.2%→94.7%→95.2% オリジナルアンケート1回目→2回目 ○将来のための勉強している生徒の増加 1年92.4%→90.8%、2年89.3%→90.3%、3年91.2%→96.3% ○平日授業以外学習1時間以上 1年:37.9%→39.1%2年:38.5%→47.1% 3年:65.7%→76.5%	「学が意味を理解したうえで主体的に学習することで成績は上昇する」 「学習すること自体がおもしろいから勉強をしている」 1年:42.9%→45.8% 2年:40.5%→44.0% 模試平均点偏差値 【総合学力テスト7月→11月→1月】 1年:51.6→52.5→52.9 2年:50.3→48.9→49.8
	社会性の育成	★豊かな心 ○自己存在感、自己有用感、コミュニケーション力、自己決定力等 ★多様性・包摂性 ○キャリアデザイン力(やりぬく力) ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	コミュニケーション力は探究的学びを通じて、かなり磨かれている。SA等を通じて自主的に社会貢献活動も行われている。 「物事に取り組む際には、目標や具体的な手順を考え、その達成のために努力できる」・・・90% 「将来の社会を持続可能なものとするために、今後、環境や社会の問題を意識した行動に取り組んでいきたいと思う」・・・80%	学校全体としての3年間のキャリア教育プログラムを進める。 ・進路希望調査 適性検査 ・科目選択説明会 ・進路講演会 文化講演会 ・国際シンポジウム ・探究成果発表会	B 「物事に取り組む際には、目標や具体的な手順を考え、その達成のために努力できる」 ・・・1年83.7% 2年87.3% 3年88.3% 「将来の社会を持続可能なものとするために、今後、環境や社会の問題を意識した行動に取り組んでいきたいと思う」 ・・・1年87.0% 2年80.1% 3年84.3%	・学年縦割りゼミでの探究活動を通じて、探究スキルや共同スキルを向上させる ・「ものづくり総合技術展」を利用した広く将来を考えるキャリア教育 ・探究成果発表会 ・鍊歩会	B 「物事に取り組む際には、目標や具体的な手順を考え、その達成のために努力できる」 ・1年83.7%→82.0% 2年87.3%→84.0% 3年88.3%→88.7% 「将来の社会を持続可能なものとするために、今後、環境や社会の問題を意識した行動に取り組んでいきたいと思う」 ・1年87.0%→85.6% 2年80.1%→85.2% 3年84.3%→86.2%	学年縦割りゼミの探究活動とSAや修学旅行の大学・企業訪問とを関連させ効率化を図る
取組項目	地域協働学習	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	「地域や社会をよりよくするために何をすべきかを考えることがある」・・・80% 「高校入学以降、地域や社会をよりよくするために、地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある」・・・70%	国際バカロレアの教育活動の一つでもあるSA(Service as Action)を学校全体で進める ・生徒の自主的活動の推進と支援 ・地域と連携した植栽活動 ・県警と連携した交通安全運動	B 「地域や社会をよりよくするために何をすべきかを考えることがある」 ・1年65.7%、2年67.4%、3年68.6% 「高校入学以降、地域や社会をよりよくするために、地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある」 ・1年22.4%、2年69.5%、3年83.8%	・SA(Service as Action)を学校全体で進める ・生徒の自主的活動の推進と支援	B 「地域や社会をよりよくするために何をすべきかを考えることがある」 ・1年65.7%→66.5%、2年67.4%→69.3%、3年68.6%→76.1% 「高校入学以降、地域や社会をよりよくするために、地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある」 ・1年22.4%→66.8%、2年69.5%→85.2%、3年83.8%→83.4%	各学年を中心として具体的目標を定め生徒に周知したことが効果につながっている。引き続き学校全体として進めていく
	教科横断的教育	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付けれる力の育成	学校評価アンケート 「コミュニケーション力が身につけている」・・・肯定回答95%以上 「課題を見つけそれを解決する力が身に付いている」・・・肯定回答80%以上	「総合的な探究の時間」を核として深い学びを進め、キャリア教育へと繋げる GlobalCitizenshipプロジェクト Ⅰ【自律】→Ⅱ【挑戦】→Ⅲ【実現】 ・中学校3年から高校3年までの縦割りゼミの実施 ・修学旅行と連動する大学訪問・企業訪問	B ・クリティカルシンキングスキルの活用を通して多角的な視点から物事を考え、信頼できる根拠に基づいて論理的に表現できる生徒を育成することを目指し全ての教科の授業において確かな根拠に基づいて論理的に表現する方法を学んでいる。	・生徒とユニットプランナー、ルーブリックを共有、確認した後、単元の指導と評価を実施する ・成果物の指導(形成的評価)前、指導後を比較し、指導(形成的評価)の成果について評価する ・修学旅行	B 学校評価アンケート 「コミュニケーション力が身につけている」・・・肯定回答91.4% 「課題を見つけそれを解決する力が身に付いている」・・・90.3%	「総合的な探究の時間」を核として深い学びを進め、キャリア教育へと繋げる GlobalCitizenshipプロジェクト Ⅰ【自律】→Ⅱ【挑戦】→Ⅲ【実現】の内容をより深めていくための仕掛けづくり

		取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
チーム学校	学校の振興	★学校の魅力化 (進学拠点校) 希望する進路を実現する (グローバル教育の推進) グローバル教育の充実を図る	○国公立大学及び難関私立大学進学者120名以上 ○CEFR A2レベル以上 100% B1レベル以上 50% ○SA活動等参加者200名以上	学校全体としての3年間のキャリア教育プログラムの構築及び改善 ・教科会を充実させ、自主学習へと向かわせる授業展開の検討と実施 ・授業研究会等の継続的实施による授業改善 ・企画研修部を中心とした学力分析会 ・TOEFL Junior等の活用	B ○国公立大学進学希望者(8月末現在) 1年188名(67%) 2年165名(61%) 3年158名(60%) ○CEFR(9月現在) A2レベル 1年128人(45%) 2年244人(90%)3年245人(93%) B1レベル以上 1年 29人(10%) 2年 38人(14%) 3年83人(30%)	・進路希望に応じた個別の進路相談、サポート ・目標意識の喚起と効果的な学習方法の指導改善の実施	B ○国公立大学合格者(3/10現在) 100名 ○国公立大学進学希望者(12月末現在) 1年184名(65.9%) 2年180名(66.4%) 3年158名(60%) ○CEFR(3月11日現在) A2レベル 1年266人(96%) 2年252人(93%) 3年245人(93%) B1レベル 1年63人(23%) 2年83人(31%) 3年96人(37%)	教科会の充実 授業研究会の継続的实施 学校評価アンケート 「本校の様々な活動を通して、教科・科目の学習を以前より取り組むようになった」・・・生徒肯定回答81.4%
	不祥事防止	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	○現状課題 成績評価の方法がIB形式、文科形式と複雑化している中で、ケアレスミスが起こりうる状況である。 ○校内研修の実施回数【3回】 ○不祥事防止委員会の実施回数【10回】	・不注意によるミスを防ぐため、ダブルチェック体制の励行 ・より良い職場環境を作るため、職員間でも生徒に対してもRespect each other の徹底	A ○ヒヤリハット事案の共有 ○個人情報保護校内研修【1回】 ○不祥事防止委員会【6回】	・整理整頓 ・複数確認 ・文書類の総数確認 ・Respect each other の徹底	A ○校内研修【3回】 ・個人情報保護校内研修(9.19) ・ヒヤリハット具体事例を用いての研修(11.14) ・緊急メッセージ校内研修(1.27) ○不祥事防止委員会【10回】	・整理整頓 ・複数確認 ・文書類の総数確認 ・Respect each other の徹底
	働き方改革	★長時間勤務の解消 業務の効率化を図り、心理的、体力的に余裕をもって働ける環境をつくる	徐々に業務改善が行われているが、業務量の多さから一部、45時間/月を越えている者がいる。 ・部活動の練習の効率化を図り、部活動ガイドラインに基づく練習計画の作成 ・時間外業務45時間/月を越える者・・・10人以下	・ガイドラインに沿った部活動計画の作成 ・体力回復も考慮した練習計画と複数顧問での指導業務分担計画 ・会議の精選と時間短縮、資料の電子化によるペーパーレス化 ・ICTを利用したアンケート等の実施による集計作業の効率化	B 時間外業務45時間以上 4月(21人)5月(12人)6月(25人) 7月(10人)8月(4人)	・学習支援員・部活動指導員の効果的な活用 ・会計年度職員の効果的な活用	B 時間外業務45時間以上 9月(7人)10月(14人)11月(9人) 12月(6人)1月(8人)2月(10人)3月(8人) 学校評価アンケート 「高知国際高校での勤務に満足していますか」・・・教員の肯定的回答 77.4%(昨年度69%)	・業務の引継ぎ等をいっそう効果的にを行い定型業務の負担を減らす。